

	進取の気概 (校長室だより)	有田市立箕島中学校 自主 友愛 剛健	R3.11.24
			No.47①

人権講演会 感想をシェアしよう①

今日、にしゃんたさんの人権講演会を聴いて、「認める」と「かわる」がセットじゃないと、それは人権を尊重しているとは言えないんだと分かった。人にはそれぞれ違うところがあって、似ている人でも少しは違うところがある。それが人間にはあって、とてもすてきだなと思った。

その違いを笑うことで、その場の空気が明るくなることもあるけど、笑われた人が傷ついている可能性があるから、そういうところも気をつけて「共笑」していきたい。にしゃんたさんが考えた「共笑」という言葉はとてもすてきだなと思った。共に笑えば、世の中が明るくなって楽しくなると分かった。日本の文化は独自のものがあって、日本っていいなと改めて思った。これから違いを認めて、かわろうとしたい。(1年生)

今日は、人権講演会として、にしゃんたさんの楽しくておもしろい話を聞きながら人権について学ぶことができました。にしゃんたさんはスリランカ出身なのに、とても上手に日本語を話していたので驚きました。

“人は皆違いがある。逆に違いしかない”という言葉がとても印象に残っています。私も勉強やテストの順位、自分の顔やいろいろなことについて人と比べて悩んだことがあります。にしゃんたさんの言葉を聞いて、人は皆違うんだから、人と比べてもなにもないんだということに気づかされました。

また、“共笑”“共生”という言葉も印象に残っています。どちらも今まで聞いたことのない言葉でしたが、この漢字のとおり、これの意味は“共に笑う”“共に生きる”という意味のとてもすてきな言葉でした。今、私たちが生きている社会は一部の人しか笑っていなかったり、楽しめていなかったりしています。なので、私は社会にいる人皆を笑顔にすることはできませんが、私が居るクラスの皆だけでも笑顔にすることができれば嬉しいと思います。これが実現できるかどうかは私の努力次第だと思うので、これからの学校生活、これを頭の片隅に置いて生活したいと思います。(2年生)

にしゃんたさんの人権講演会を聞いて、“共笑”することがとても難しいと思った。人それぞれ必ず何かが違う、違いを受け入れる事は難しいとも思った。これから私たちはたくさんの人と出会い関わる。双子ですら、顔が、性格が、好きな食べ物が違う。もちろん思うことだって違う。自分とは違う意見は、特に大切にすべきだと思った。違いだらけの世界で、一人も泣くことがないよう、自分がどう動くべきかが大切だと感じた。私は、今学校という小さな場所で、一人も泣くことがない最善の方法を考えたいと思った。

人間どうしでの命の価値の差や人間と生き物での命の価値の差など、すべての命が平等に扱われるべきだと思った。私が社会に出たとき、私は出会った人、一人も泣くことのないような行動をとりたと思った。(2年生)

にしゃんたさんの講演会を聞いて、この社会はちがいがなくて、そのちがいを受け入れなかったり、変わらないんじゃないかと、ちがいを受け入れて変わるの大切だと思った。にしゃんたさんが言っていた共笑(ともえ)という言葉が、いい言葉だと思った。誰もが笑えて、一人も泣いている人がいないような社会になってほしいと思った。いろんなちがいがいて、ちがいを学んで、ちがいを受け入れて変わっていきたくと思った。(2年生)



	進取の気概 (校長室だより)	有田市立箕島中学校 自主 友愛 剛健	R3.11.24
			No.47②

人権講演会 感想をシェアしよう②

にしゅんたさんの話を聞いて、みんなちがうから、みんないいという言葉がどれほど大切かということが分かった。ちがうこと(肌の色)とかそういうことでキメツケたり偏見をもったりすることは一番ダメなことだと改めて気づいた。『共笑』という言葉は共に笑うことだということが分かった。今、自分は少し普段の行動で、人を判断してしまったりしてしまっているところがあったなということ思い出した。『共笑』の共に笑うの“共に”というところがとても大切だと思ったし分かった。一方が笑っていても、一方が泣いていたら、どちらもいい気持ちにもならないという考えを持った。がんばって文化の違いや全ての違いを受け入れていきたいと思った。そして、自分一人では全ての社会をかえることはできないかもしれないけれど、声を上げて、よりよい社会、『共笑』な社会をつかっていきたいなと感じた。(2年生)

今日の人権講演会はとても聞きやすく、問いかけとかしてくれて、とても参加しやすかったです。とてもおもしろかったです。

人権について考えることもできたし、あらためて、みんなそれぞれ違いがあるということに気づかされました。顔も指紋や色と違いがあって、みんな違って、やっぱりみんな良いんだと思いました。

「違い」や「違う」と聞いて、初めは悪いことが浮かび、あまり良い事は浮かばなかったけど、にしゅんたさんの話などを聞いて、「違い」は悪い事じゃないというのに変わりました。

だれか一人が笑顔じゃなくて、みんなが笑顔で泣いている子がいないようにしたいと思います。本当におもしろくて、また聞きたくなりました。これからも人権について考えて、にしゅんたさんが言ってくれたように「共笑」をこころがけていきたいなと思います。思いやりを大切にしていきたいです。(2年生)

今回のにしゅんたさんの人権講演会を聞いて思ったことは、ちがいを受け入れることはとても大切で、とても重要なことだと感じました。その時に、にしゅんたさんが言っていた「共笑」ということもとても心に響きました。ちがいを受け入れることは相手もプラスになるし、自分にとってもいい成長するタイミングだと僕は思いました。にしゅんたさんが最初のほうで言っていた首の振り方が日本とスリランカでちがうと言っていました。また、その時、にしゅんたさんは「良い印象」で受け入れるか、「悪い印象」で受けるかと質問していました。僕はそこでどういうとらえ方をするのかで、大きくちがってくると思いました。にしゅんたさんはおもしろく分かりやすく、人の気持ちを考えることを教えてくれました。本当にありがとうございました。(3年生)

僕は今日までもさまざまな人権問題があることを知っていたが、それはだいたいテレビで見て専門家の人が何か言っているのを聞いていただけだった。けれど今日初めて、自分でどうそれを解決するのかということを考えることができた。外国と日本、国と国では同じものはない、言語でもなんでも。もちろん日本の中でもちがって、有田市でもちがって、一人一人、70億人以上の人間がまったく違う人として生きていることを、あらためて理解できた。にしゅんたさんの話が上手くて、すごいなと思った。これだけのことを話せるのは、やはり自分の中に根をもっているからだと思った。スリランカと日本だけでも、これだけ分かり合える(共笑できる)ので、きっと世界中どこでもできると思う。けれど、ぜったいバカにする笑いはだめで、「共」というところが大切だと思った。(3年生)



	進取の気概 (校長室だより)	有田市立箕島中学校	R3.11.24
		自主 友愛 剛健	No.47③

人権講演会 感想をシェアしよう③

私は講演を聞いて「みんなちがって、みんないい」という言葉を思い出しました。みんな顔も性格も興味のあるものもちがいます。でも、それは悪いことではなくて、みんなちがうからみんないいと思います。

共に笑い、共に学び、共に泣き、共に助け合うって簡単なようで、実は難しいんだなと思いました。

私は「共笑」って言葉が心に残りました。みんなが笑うことは、みんなが良い気持ちになれているということだと思います。いじめなどの人を傷つける人がなくなればいいなと思います。今回の講演を聞いて考えが変わった人がたくさんいればいいです。忙しい中、お話をしに来てくださってありがとうございました。そして、これからもがんばってください。(3年生)

人と人ではちがう所がいっぱいある。文化や環境もちがう。共生・共に生きるというだけでなく、共に楽しむ・共楽、共笑・共に笑う。

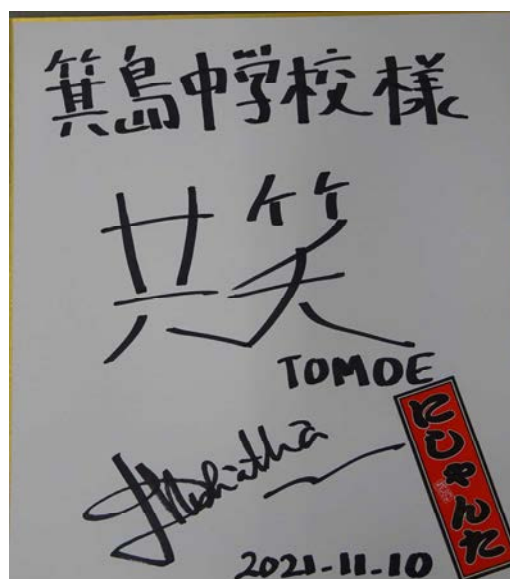
人権とは人の誰もが持っている生きる権利だと思う。世の中、黒人差別などあるけれどなくなってほしい。はだの色だけで判断するのは良くない。文化やはだの色など色々バカにするのは良くないことが分かった。今回、大切な経験をできたと思う。貴重な話が聞けたと思う。(2年生)

人はみんな違うんだと感じました。『共に』というところが、とても大切なんだと思いました。共生ではなく共笑、共楽、共学、共育のような生き方が必要だ、という考えを聞いて共感しました。共笑な世の中にするためには3つのかべがある。この意見を聞いて、なっとくしたところがありました。受け入れ、変わる、この2つのうち、どちらかが欠けても共笑にはなれない。だから、自分は違いを受け入れるところから、きちんとはじめようと思いました。人権とは何か、ということをもっとしっかり意識してみようと思いました。同じことは1つもないから、人を(個人を)大切にしないとイケないなと感じたし、そんなことがないような世の中に変わっていったらいいなと思いました。人との関わり方をもっとしんちょうにしていきたいです。(1年生)

私は、にしゃんたさんの話をきいて、「たしかにそうだな」と思うことがたくさんありました。そして、にしゃんたさんが体験した話(からい食べ物の話など)から、自分も今まで先入観があったけれど、そういうのは人を傷つけてしまうのかなと思いました。

「なんか意外やなー」と思うことが日常よくあるけれど、相手はいやな気持ちになっていたのかもしれないなと気づきました。また、スリランカの人たちは手でごはんを食べるという話で、最初は「きたないな」と思ったけれど、今は「おはしで食べるのがふつうだと思っていたけど、手でたべるっておもしろいな」と思うようになりました。違いがあるのが普通で、違いがあるからこそおもしろいし、楽しむことができると分かりました。

にしゃんたさんが教えてくれた「共笑」は、すごくいい言葉だなと思いました。「共生」は当たり前、その先の「共笑」「共活」を大切にして、違いを大切にして、これから家族・友達などと生活していきたいです。(1年生)



にしゃんたさんからサインをいただきました。校長室前に掲示します